

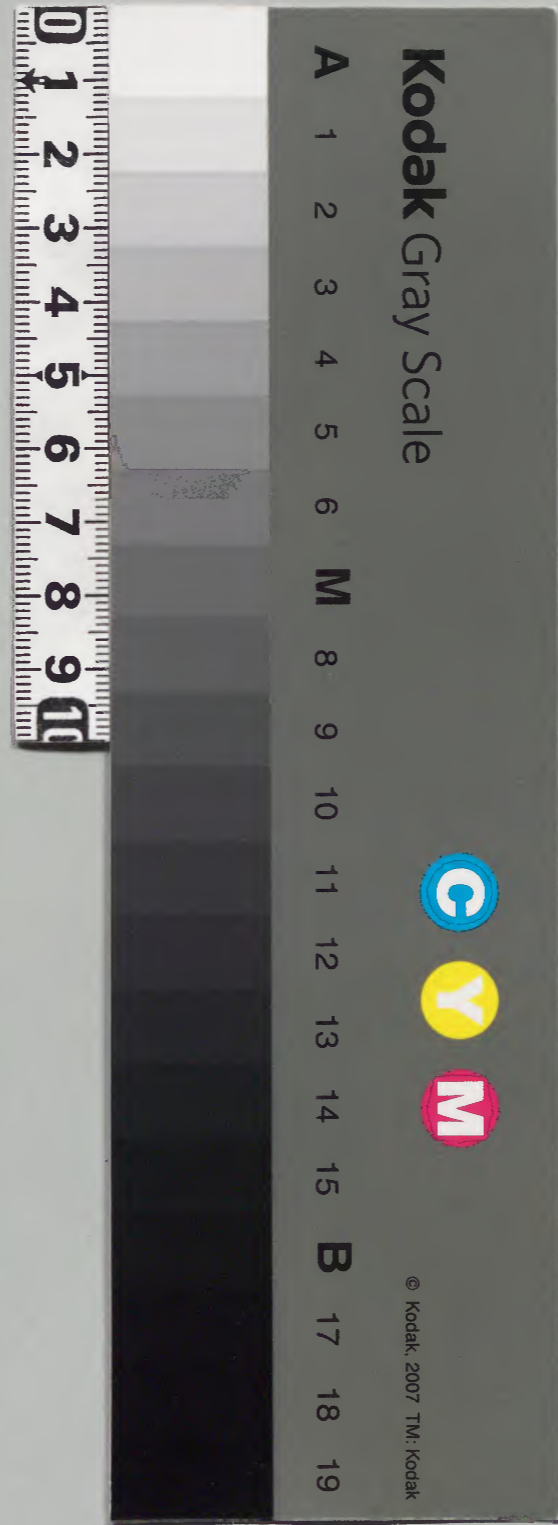
日本書紀傳 三十卷_{十三}

和書
一〇五二二號

百十五

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (124)	
函號	特	85 1

海一六八八八號



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

高野山
御印

内一二六八三號

清
文
庫
印

許世小親く睦く寵くく愛くく物く非り

けれハ君より幸れ奉るを幸福と爲て号くれむ事實

小甚有く將欲く尊号く御在く坐くけく此第三

奇稻田媛と有ハ更くあり天孫降臨章ハ鹿葦津姫の御

事を皇孫因之幸之と有ハ此等の幸字を米須と訓

又其第二一書ハ皇孫謂姊爲醜不御而罷妹有國色引

而幸之と有ハ此ハ美登阿多閑麻須と訓れたリ蔡

邕く言ハ御之親愛者曰幸と有ハ此字義を合して后

を君幸也と云ハ實ハ謂れたリ説く可くく所思

えた
○故其積羽八重事代主神又ハ都味齒八重事代

大人命又ハ天八重事代主命と申奉りて其御本名

ハ味耜高彥根神と申奉りて事代主神ハ其和魂の御

名ハ御在く坐く荒魂一事主神亦云一事神亦く對ハ

○日本書紀傳三十

六百四十五

せ給へるが其御本體に和魂を兼て味耜高彥根神
中奉る方の亦名を賀茂別雷神亦名大山咋神亦名山
末之大主神と申奉りて種々の御名御在り坐す中
事代主神と聞ゆる御名少く齋奉る御社の甚止事無
きハ上四百九十一丁小注一奉れり神名式小大和國葛上郡
鴨都波八重事代主命神社並名神大月と有る是あり
然して神代より以降松尾日吉の兩社と共に並び立
り御在り坐して今京定りてより皇御孫尊の近守神御在り坐す朝廷の御覺えの天下
小此上無く御在り坐ハ山城國愛宕郡賀茂別雷神社
亦名若雷名神大月次相嘗新嘗是あり此御社の御事ハ甚混ハ

事共多くて更小定りたる説の無きを已小傳
十二九十六丁小粗其説ハ成りたるを今此小未女一注一
奉るもと爲る小元曆奏上記小賀茂別雷皇大神宮社
四座中所祭正哉吾勝速日天忍穗耳尊故以皇字繼
伊勢元高皇產靈尊右武祇命後事代主命也と有て今
祀る所四座あり其天穗耳尊高皇產靈尊等の御事ハ其下文小欽明
天皇廿八年四月中自大和葛木鴨途日村社本所祭三
座兒神皇兒神以味耜高彥根神陪之地依神宣迂山代
別雷山遺味耜高彥根命止葛木鴨吾勝尊與兒神至祭
於山城以皇兒神忍穗耳尊祭上社以兒神素戔嗚尊祭下社略

時高皇產靈尊出現上社護皇基神護山之名自此始焉
と有て上社小此二神の御在り坐すハ欽明天皇より
以降の御事と所見たり此事下六卷七小委一辯ふ可なり諸此上社小天忍穗耳尊の御在り坐
す御事を承引ぬ輩と有れども下上吉懷記を見ら小
若宮在本宮東傍瓊杵尊と有ハ其天忍穗耳尊小對奉り
て若宮と申せる事著明り受ければ強小破る事いさ
事傳十五二百三十七丁小注一奉るが如し但二十二社神体
秘記小賀茂別雷神社一座別雷大神天津彦火瓊杵
尊加祭神一座神日本磐余彦尊と有て別雷神を
瓊杵尊云ハ辨事あり者そ論無く且入此小神武天皇も御在り坐す由云るハ

上六百十小注九丁が如く此天皇を一も後小御祖神社
小合祭られたる其御事より混ひたる事と云る所思
しりければ又此小高皇產靈尊の御在り坐す御事を
祭上社と云事有れども此ハ諾ひ難事共あり右の
皇兒神と一小祀と給ふ方然る可し又同記小鴨
御祖皇大神宮三座中所祭兒神素戔鳴尊神皇產靈
尊右大己貴命也と有り然れども鴨神饌記小御祖大
神宮中日女大神左神日本磐余彦尊右高皇產靈神客
御前大己貴命と有を見れば下社小高皇產靈尊上社
小神皇產靈尊の御在り坐す狀あり此二推神ハ右の
天忍穗耳尊小就令祭る事武祇命の祖神の謂
可今考ハ右武祇命ハ一も賀茂縣主等の祖一也此
地小ハ甚止事無き神ハ渡りせ給へり此小合
せ被祀りハ後世の御事あり可し其ハ傳廿六二百六丁小

注一奉るが如く可茂建角身命也丹波神伊可古夜日
賣也玉依日賣也三柱神者美倉里三井社坐と有八即
神名式小謂ゆり三井神社名神大月是より若く秦氏
本系帳小故鴨上社号別雷神鴨下社号御祖神也戸上
矢者松尾大明神是也是以秦氏奉祭三所大明神而鴨
氏人為秦氏之聲也秦氏愛聲爲以鴨祭讓與之故今鴨氏
為祢宜奉祭此其縁也と有て元來下上兩社共小秦氏
の仕奉。社よりけり其愛聲なる所以小縁て鴨氏
人小其職を讓與たる由少く其ハ和銅の頃と思し
りければ其より後の事よりつゝも事云も更なり又

△六百餘抄第九年
十一月廿六日下小
鳥明神と有て古
河社あり

其美上記小下鴨所攝有小鳥社八咫鳥之と有て吉懐
記小鳥社在河合社建角身命之荒魂に所見たるも
右と同一く可一諸姓氏録山城國神小賀茂縣主神
魂命孫武津之身命之後也又鴨縣主賀茂縣主同祖神
日本磐余彦天皇謚神欲向中洲之時山中嶮絶跋渉失
路於是神魂命孫鴨建津身命化如大鳥翔飛奉導遂達
中洲時天皇喜其有功特厚褒賞八咫鳥之号從此始也
又矢田部鴨縣主同祖鴨建津身命之後也又文部同上
又西湍部鴨縣主同祖鴨玉依彦命之後也又祝部同祖
建角身命之後也と有て右の六氏ハ皆武祗命より出

△但此武帳命之事
代主命御宇合
世念ひて帝基を
守護奉ると給ふ
所以有り下
云へり若し

攝
△ミケ下鴨若若三
所の攝社小社社
と有り是より右
小引中記あり
此小當にカキ守ぬ可
き者なり

たる共ふれば其氏人の祖神なるを以て奉祀の御社

の從祀とハ仕奉れ者多可なり但氏社と云ハ

別小在り吉懷記小氏神社在木宮東南十町許大宮森

天太玉命或天兒屋命太と有ハ建角身命の御父神小

御在すり注進略記小氏神祭四月初申日社司五官

衣冠以下淨衣舞人十人騎馬参向于氏神社奉幣下向

小森社有舞樂と所見なり其氏神社ハ屬社有と見

社大國主命奥深社山森社素戔鳴尊稻田媛命田心

姫命任部社と有小守社ハ右の小森社ハ同記小

深社私部社ハ貴布祢の攝社小在り山森社ハ同記小
浮田森在上賀茂乾六七町賀茂川面也祭神三座号山
守社一年洪水社流一社者流本社即是謂半木社也當
時二座と有り其流木社ハ在下上間各隔八町故云中

賀茂事代主命と有る是より儲賀茂氏人ハ右の如く
天太玉命子建角身命の後より小氏神社の末社ハ素
戔鳴尊稻田媛命又大國主命田心姫命又事代主命等
の五柱を齋奉る事ハ何の由る事を知ず故思ふ小
上四百六十六丁小注るが如く此國ハ賀茂朝臣の同
族少く秀倉縣主と云有る賀茂里小居任り其子
孫小至りて嗣子無り故小鴨縣主助祐廣の二男
祐秀を以て家を令継たり鴨縣主の族小列れ
る即今の鴨脚家は是より其所以を以て氏神社小次
ハ右の神等ハ血縁の祖る雖も其家督の先ふ
る故小齋奉る右の三座ハ後小合祀御神等小御
事と所見なり
在し坐ければ事代主神も此ハ主と御在し坐け
る奏上記小自神代所鎮上社事代主命下社大己貴命
而已故有別巖土山之名也後竟為山城國柱矣天降自
神代先之詠於此在焉中略顯言則上社事代主命下社大

△賀茂別雷神
一座として大日靈神
大山咋神と系を立
たれは其又各々
事然然と二社
注賀茂上社大
山咋神松尾日吉
同体と見え

已貴命而已略之見元吉懐記の上賀茂別雷皇大神
宮御本社事代主命と有り又上七十小注若狹國神
名帳小遠敷郡正一位賀茂大明神と有ハ當宮の属社
あり小若狹志小在賀茂村祭事代主命と有也此小合
り然して傳廿六百五十小注三丁如く大山咋神と申
奉りも亦名少二十二社注式小傳小加茂大山咋神松尾日
吉御同
体又諸神記賀茂下社御祖神御父神大山咋神神別雷神松尾神也見
元一宮記小賀茂大明神号上社大山咋神也号と見え
紹運録小別雷神大山咋神別雷と有て松尾日吉と同体小御在
一坐るを神社本紀小松尾大山咋神事代主命社家

傳曰一座と云て事代主命を合祭する事極秘也と云
ハ實ハ同神少御在一坐故あり然して又洞院
公定公の尊界分脉小事代主命近江國日吉二宮号小
比叡大明神と有ハ右小舉たる共小合て大山咋神別
雷神共小事代主命之渡り給へる證是なり神名
式小謂ゆる大和國葛上郡鴨都波八重事代主命神社
二座並名神大月高市郡高市御縣坐事代主神社大月
嘗次相嘗新嘗と有を始と爲て諸國小在ゆる鴨神社賀茂神社小
と申すハ事代主神少渡り給ふ例ありと此賀
茂別雷神社ハ一傳廿六百九十小辨ハ四丁如く

△而季物語小下鴨
申奉る大山咋神
神少て坐て是し
難有く北尾目
るとは同神
る可く
下鴨
物々賀茂大山
咋神の御在し
事証と爲し

山城風土記の故事小就て其丹塗矢の化れる火雷神
の御子の御事小混れて人皆別神と心得るを以て今
將如此叢勝しく云事し
又其大山咋神の御事也
古事記小大年神の御子
と傳へたる甚しと僻事ありて實ハ事代主神
小御在し坐す事石小舉たる證共の多し
猶勤く
事共の有を徴して傳廿六卷百五十二丁以下
小委しく辨たれば此小見合せて其然る所以を明ら
め曉る可き者あり又神名式より上野國山田郡賀茂
神社を頭注小大山咋神と云る然る傳の有ける小
事紀小味耜高彥根神と傳へたるハ異本舊
針間室神社山
代鴨上宮同神
と見え出雲大社
小縁起小山城國賀茂大明神當社第一王子阿式大明
神也と所見たる其出雲大社ハ大己貴大神と御在

一坐し阿式大明神と申すハ其出雲郡阿須伎神社と
申して數社御在し坐る是少く阿遲志伎を切て社の
御名と爲かるルハ是將味耜高彥根神と御在し坐
る證あり者（ラウ）又神佛眞應編小舉たる一説小上賀
茂宮味耜高彥根神中宮大己貴神下賀茂宮宗像姫神
也と有ハ本説小ハ勝りて却りて愛なき古傳あり者
あり又右小引る奏上記小兒神素戔
鳴尊
皇兒神
天忍穗の
耳尊
本御在し坐し地を大和葛木鴨逢日村社と云く下小
依神宣近山代別雷山遺味耜高彥根命止葛木鴨と有
ハ神代より上社ハ事代主命の御在し坐す社あり

小依り味耜高彥根神ハ此ハ止り坐と云々可一其葛
木鴨逢日村社ハ神名式ハ謂ゆる葛上郡高鴨阿沼須
岐託彥根命神社四座並名神大月
次相嘗新嘗是あり又鴨長明ガ
四季物語ハ當社ハ大和國高鴨ハ物ハ給ふ事ヲ天武
天皇の六年ハ當ラ二月の頃此宮ハ移され定むと云
り但此ハ諸神記ハ天武天皇六年二月丙子令山城國
營賀茂神宮と有ラ此御事ハ混ひたる説あり其初
高鴨ハ物為給ひ一由を云々ハ右件注ラガ如ク味耜
高彥根神と云々傳の有ガ故あり又注進略記ハ載ル
賀茂祭午日の唱歌ハ大和ハ海ハ嵐の吹けハ何

此の浦ハ御船繫むと詠ル此初句ハ大和鴨と云義を
持せたなり亦右の高鴨を云々又上六十
五丁引ラ攝
津國比賣許曾社記ハ雀宮神社祭神二座別雷命飯豐
命下照媛
別称也と有ラ此別雷命ハ即味耜高彥根神カ渡
ル也給ふ由其所ハ己ハ注せらガ如ク又一本舊事紀
ハ針間國室戸神社浮穴宮天皇時味耜託彥根大神出
現鎮座云々と有ハ右ハ引ラ異本ハ播針間國皇神社
山代國鴨上宮同神と有ガ如ク今も其室神社の祭祀
ハ賀茂上社より執行ハ例ありを以ても上社ヲ味耜
高彥根神として御在り坐と云々傳の正説あり事を知

べき者ふらむ但此味船高彦根神之事代主神とい本
ト神の御上ふらむ何れハ御在一坐けれ同
者ふらむ其室神社の御事ハ上百五十五丁小注一奉
者ふらむ如く其社記小當社の御神日向國高千穂峯二工
密しり洛北ニ葉山へ迂る給ふ時此國ハ暫く影向
給ふ此處名津ふらむ見行ふハ一便供奉の神等
小令せ斧鉞鎌の三又を以て葛藤を伐掃ひ湊を開
さ給ひ一リバ程無く名湊湊とハ成ゆ往來の船風波
ヲ難を凌ぐと有ハ即上社の御神し渡る給へり
故其別雷神大山咋神山末之大主神と申奉る御名義
ハ上五百七十八丁小注一奉るが如く其味船高彦根神と称
奉るハ五百津鉏の神鉏を取りて所造天下大神命
小相從奉るを給ひて國土を作堅とを給へる御功用
を以て号げ奉る所ふらむ右小擧なる三の御名也然り

先其大山咋神と申奉るハ傳廿六百五十七丁小注一奉る
が如く古國土未開けたり間ハ此山ハ彼山ハ山中
ふらむ地ハ湖水の多在り木の此大神能水理を治
める給ふ御徳御在一坐て山を劈き水を通し國
土を定め給へる御功用を以て称奉る者あり
て大山咋と申して大山鑿の義あり事ハ上五百九十三丁
島溝機姫命の所あり合せ注せり大井神と申奉る
其御時あり御名小負し給へりける若て山末之大
主神と申奉るも其時あり山を劈き水を通し給ふ内
小も國村と為へ山を占て國の鎮めと定める也

御在り坐けり御功用を祢奉りて御事是亦傳廿六五
十九小注一奉るが如く若く別雷神と申奉る別八字
の如く雷ハ借字なりて右小引る奏上記小別巖土山
と作る義より巖を伊加と訓むハ美加とも通ひて威
カの大なる御事より轉じて中洲の方言小物の層カサの
多く大なる事小伊加伊と云ひ伊加伎の語ある是ふ
り是即大山咋神と申す小其義異るる者あり故
古丹波國の湖ありて此大神大井川を通し給ひて
其巖巖巖巖の山の片方を龜山と云ふ即神山の義あり
謂ゆる龜尾山是より其片方を分土山とも別雷山と

と云ふ即松尾山是より神山ハ例の賀茂の義分土山
ハ別雷神の御名の據るるが其故事より起りて賀茂
別雷神山の後山とも然る名有り山城志小賀茂山一
名分土山又神山と有る是より詞林采要にも賀茂山
神山ハ同山の名ありと云ひ又或書小且蔭山ニ葉山
龜山龜丘本宮後山曰龜山鎮座靈地曰龜丘山と有て
何れなりても松尾小在る舊名を此小移せるハ同ト
大神より渡らせ給ふが故小其由緒有る御事ありり
一注進略記小千早振る分土山小宮居下て天降る事
神代より先と有る右小引る奏上記小自神代所鎮上

社事代主命下社大己貴命而已故有別嚴土山之名也
後竟為山城國柱兵天降自神代先之詠於此在焉有
が如く其意を合せて詠る由あり其別嚴土山を以て
山城國柱と為させ給へる此傳を以て松尾山龜尾山
同時小出來る事を知小足れり松尾山を以て大山咋神
の御名を以て齋奉り日吉山を以て山末之大主神の御
名を以て齋奉り此小ハ別雷神の御名を以て齋奉る
を以ても實小其別雷山をむ國作の初より豫め山城
國柱と定め置せ御在り坐て往て元窮の皇基を守護
り奉るを給りし神慮即已小此小在りける者ありけり

斯る謂れありや依けむ大江匡房記小賀茂大神日本
地主神也と書一日吉少て二宮の御事を地主大明神と申
或書小貴船奥御前所祭事代主命也本朝地主神と
書元一岷江入楚小賀茂大神ハ山城國の地主として御
在り坐せばらるる所見たり皆右の國柱小依りる
以有る御事と見ゆ者其國柱なる分土山ハ或書小土
人云分土山別雷山同之在り岡山後御生山東也俗稱
圓山とらひ名跡志カモ神山カモ殿東山是也別名ニ
葉山日蔭山賀茂山と有り其二葉山の事ハ次小云
別雷神の御事と甚混りハ一と事の有る賀茂舊記本
朝文集奏氏本系帳等小正し傳廿六卷御鎮座の御
事ハ同一神代カモ小松尾日吉少ハ後れさせ給へ

△六百八十二

△見え之記
小神山如名山同訓
口傳往古此神降臨
坐所下岩根是謂
降臨石其神御坐
神山天般名也
寄之細留の
我君の古此歌夫
本集三四神祇
歌と出た
又漕寄せ現形
坐之具所と御
生所と云其神坐
所の邊と云野
と舟著の入江
しり云と

りて見の先風雅集神祇久方の天の磐船漕寄せ
神代の浦や今の御生野と有或社説小神代浦ハ御生
野の惣名なり天孫御船召れ降臨の地なり御生野
の左方を船著と云ふと有小就て考有り豊葦原十定
記小古仁八十万乃神達乎天高市仁集給比神議仁議
給天可遣神乎尋出之奉利此國陪鹿島仁坐寸武雷神
香取仁坐寸齋主神乎下之千早振思神乎悉皆伏世順
陪奉天遂報申寸此後建角身命國乎見巡之御座寸
於是天鈿女命磐樟船乎漕奉利尊乎神代乃浦乃浪靜
奈磯未送利御座仍天天乃神與賜之神寶乎以天此國

乃固止成世上波年北山麓仁應化之百王乎守利玉布
と見えたる此ハ甚近き物なり右の歌ハ合せて
考る小心受る必所有べきなり但此後建角身命國乎
見巡之御座寸と云ハ氏人の加筆あり疑ふ
ハ賀茂別雷命寸有つる可一天鈿女命磐樟船
并漕奉利ハ建角身命ハ神武天皇東征の御時小天降
給へルハ此小由無く又瓊杵尊を此小供奉れ
とハ本より云べしりければ猿田彦神を送り聞
えこて御事の傳と云ハ所見なりけれ其猿田彦
神と申すハ上二百五十六丁五百二小注一奉り如
十六丁五百八十丁

く此事代主神の國避以後の御名もが彼天八衢小
参向ソ也給へルも其御尾前小仕奉ル也給ふ謂ルり
天孫降臨章第一ノ書小因曰發顯我者汝也故汝可以
送我而致之矣中略即天鈿女命隨猿田彦神所乞遂以侍
送焉と有る此御時の事と見て大小合ふ所有り上二
四十小注ルが如く伊賀伊勢志摩等の國ニ小事代主
神の御事跡の多在るハ此より以後の事と所見たり
然ルバ此小天鈿女命の送り聞えさせルハ其別雷山
ハ一此神の國柱と定めさせ給ふ所ニと以て御
在リ坐て此小御靈を留めル也給へル也上記小

自神代所鎮上社事代主命也と有ハ決ク此の事あり
けり若し般船ハ空行の物ありカ此小神代乃浦
と云ハ後小一地名ありけり神代ハ海濱ニ浦
回ありけり謂ルも可一其ハ上五百九十六丁小注ルが如く
攝津國三島江ハ川口より今ハ七八里も有る地あり
と云六七百年以前の歌小潮海あり由を詠ミ且神武天
皇の大御船泊ル也給へルハ河内國牧方の地是あり
況て其より遠ク神代小ハ其山北の麓ニ海ありトと
見えて此邊上社より東へ移してハ山城風土記小謂ルも久我國ありハ其
海濱あり小對へて陸地を云ル稱ルけりハ右小浪靜

奈磯と云程の地ありけむ事何うハ疑ハむ古事記ハ
留磯と云程の地ありけむ事何うハ疑ハむ古事記ハ
猿田毘古神坐阿邪訶時爲漁而於比良夫具其午見咋
合而云くと有ハ神名式ハ謂ゆる伊勢國壹志郡阿射
加神社三座並名神大と有る是るが其地今大阿坂村
と云て古ハ海中多り所ハ今ハ海邊より四五里計
も奥方と成おたり傳廿九百八十八注せる同郡射山
神社の山を貝取山と云て山中ハ貝の化石の今現ハ
見ゆるを以て今ハ海無き山城國と云れども神代の古
ハ其邊迄も猶難波のハ海より續きたり潮海ハ
てころ在けり
但此ハ地理ハ暗人少云難事
少其鈍心ハ神代より以降海

陸共ハ斯り者この多思ふ事ハれども海ハ次第ハ
淺テ陸の漸次ハ高く成けり故ハ今テの如ク地形ハ
ハ成れり今より後千年万年を経て後ハ又此
より如何大さくハ成てや此即狹國ハ廣く嶮國ハ
平けく成以て行く謂ゆる其日向國より移るハ
生國足國の所以あり者あり其日向國より移るハ
御在ハ坐ハ御事ハ山城風土記ハ可茂社稱可茂者日
向曾之高千穗峯天降坐神賀茂建角身命也神倭石余
比古天皇之御前立上坐而宿坐大倭葛木山之峯と有
る此を建角身命の御事と爲時ハ日向國高千穗峯
の事ハ由無く又猿田彦神の御事と見時ハ神倭天
皇の御前ハ立ハ坐ハ故事物ハ見え其上可
茂社ハ右ハ注るが如く神代より事代主神の御社ハ

リ又可茂と云も古事記小阿達鉏高日子根神者今謂
迦毛大御神者也と有て上四百七十四丁小注るが如く神代
小天神と申すハ大己貴神小御在坐神と申すハ
此命小御在坐と稱ふりて迦毛と云語小定より
大和國葛上郡の地名あり建角身命も其地小御在
坐ける小依て賀茂と冠申す小ころ有けれ打任せ
て可茂と云事ハ其神少ハ有べりる故思ふ其
神も葛木より此小移坐して住給ひ丹塗天の故事か
ども有て名高きく其と此と一小成れり少て實ハ
事代主神亦名猿田彦神の御事ありりけり其ハ右

六百五小注るが如く播磨國室神社ハ鴨上宮ハ同ト
十二丁
味耜高彥根神少て渡り給へり小其社傳ハ當社
の御神日向國高千穗峯二上嶽より洛北二葉山へ遷
り給ふ時此國ハ暫く影向と給ふ下略と有て建角身
命少てハ叶はず右の天鈿女命の送り致し給ひつる
時の御事少て天孫降臨の即有御事あり可し神倭
石余比古天皇之御前立上坐ハ其戊午年御紀小夜夢
天照太神訓于天皇曰朕今遺頭八咫鳥宜以為郷道者
果有頭八咫鳥自空翔降と有る此事りと思ふ此ハ
直小天上より降れり小ころ有けれ右の日向國高千

穗峯の事小係合す故考る小此ハ建角身命ニ事代主
神と二神少ク在リ故事多クモ天武天皇元年御紀
小高市杜所居名事代主神又牟狹社所居名生雷神者
也乃顯之曰於中略吾者立皇御孫命之前後以送奉于不
破而還焉と有リ如ク天神御子の行幸の前後ハ事
代主神の必御尾前ハ立リ御在リ坐す例多レバあり
宿坐大和葛木山之峯ハ神名式ハ葛上郡高鴨阿治須
岐詫彦根命神社四座並名神大月
次相嘗新嘗と有リ此御社ハ其
高天山の麓ハ御在リ坐す奏上記ハ詔ゆ葛木鴨逢
日村是ふれば此山峯ハ宿す御在リ坐す例多レバ然ル

有ぬ可キ御事多ク然れば此風土記の説ハ神武天皇
の東征の御時ハ當リて彼山城國ハ御在リ坐し事代
主神の日向ハ御在リ坐す其行幸を迎奉るを給へる
御道次の古傳ハこころハ御在リ坐すの後の事ハ申
ふが賀茂御祖神社ハ神武天皇を合せ祀る事實ハ
所以有御事ハ多ク有リ又葛城山の續ハ神名
式ノ宇智郡高天山佐太雄神社缺御在リ坐す佐太雄
神猿田彦神同名ありとも思及不可キ者あり大和志
今在佐名傳村一説大澤村福山頭俗呼天狗峯と有る
佐名傳村ハ國圖を見り西佐名傳東佐名傳と云ふ
二村有リ阿田ハ隣りて吉野川の傍ありければ高天
山と云ふ地名ハ合はず大澤村の方當れりふ似たり

又天狗岑と云、猿田彦神と成て頭ハれ出させ給へ
ろ小鼻長七咫と云、俗ハ画々ハ天狗と云物の状ハ
鼻を長く書く事ハ此バ却りて其天狗岑と云俗名
を以て證と爲べきあり又高山山の麓の葛上郡の方
小佐田村と云有れども此ハ多太神社ツ所在少ク別
あり因云越後國頸城郡ハ大神社居多神社水島磯部
神社多ク坐ハ上ハ十六丁ハ云々ガ如ク大己貴神の
一旗の神等アリクハ同郡佐多神社坐り大同類聚方ハ
奈也美樂越後國頸城郡佐多神社傳方元波大己貴命
傳割也○祝大神臣。彦等之家方と有ク大神臣ハ事
代主神の子孫多ク其佐多神社ハ仕奉ル事此ハ亦
猿田彦神とハ同神少ク渡ルセ給ヘ一証あり者
又風土記の續々ハ自彼漸遷至山城國岡田之賀茂
隨山代河下坐葛野河與加茂河所會至坐迥見賀茂川
而言雖狹少然石川清川在仍名曰石川瀨見小川自彼
川上坐定坐久我國之北山基從尔時名曰賀茂也と有

て次ハ丹塗矢の故事あり古事記ハ大山咋神云亦
坐葛野之松尾用鳴鑄神者也と有て其丹塗矢を射放
たセ給ヘハ此間の御事多クと思ふハ右件ハ建角
身命ハ頭身ふぐり住ベト處求メ小出坐ると事代主
命ハ頭身を現ハレテ鎮坐す宮所ハ移ルセ給ふト一
時小在御事多ク可一岡田之賀茂ハ神名式ハ相樂
郡岡田鴨神社大月次と有る是あり山代河ハ今云木
津川の事あり葛野川ハ拾芥略要抄ハ今号下桂と有
て謂ゆる大井川の末流あり葛野河與加茂河所會ハ
横大路の上方小川合あり所有る是あり久我國の北

山基ハ式小愛宕郡久我神社有リ今賀茂御祖神社の
北小在リ釋紀小賀茂建角身命大和國八咫鳥神社山
城國愛宕郡久我神社三井神社以上鎮座三箇所と有
リ其一より從テ時名曰賀茂也ハ建角身命ハ此賀茂
の地小御在リ坐セハこゝ然申テ奉レ上小謂レ
三島溝檝姫の三島と同例ありければ此時事代主神
も共小御在リ坐テ鎮リ坐ス所以の名也上文小可
茂社称可茂者と有リ結ル小心を著ベリ借此地小
神武天皇の前後小立テ守護奉給ヒ建角身命事代
主神の共小鎮リ御在リ坐テ皇御孫尊の御尾(崎)前の

守護神と爲テ御在リ坐テ御事ハ實小少縁あり
き幽契小あり有けり此時の出坐を右の二神諸共小
と見ル時ハ傳廿六百九十小注セリ如く鳴鏑を用給
ヒハ事代主神其矢の化レ火雷神ハ婚奉リハ
建角身命の女あり時と云ヒ所と云ヒ甚能今事代
主神の御事ハ可ト事三有リ一ハ上小注カ如
く此別雷山ハ事代主神と味耜高彥根神とも聞え
せて大己貴神と共小國作の神跡あり二ハ右六百
六小注カ如く猿田彦神と聞えテ天鈿女命ハ五十

て天磐船小乗て神代浦の浪静ふ磯小鎮り坐る此
時ハ未潮海の海岸あり一状あり三のハ建角身命と
共小神武天皇の御尾前として日向國より中洲小導
中給ひし今此北山基小宮居を定めし給へ是ふ
り當時己小潮海あり一餘波たふ無く一々山代川賀
茂川葛野川の水脉各有て郊こと一なる原あり一事
川小葛野の名有を知べ一是即地理の沿革あり如此
く前後三度あり終小万世小易る可くぬ宮所と
定りしを御在坐けり天地と无窮き現人神の大
宮所即此大神の敷坐す國の真域不定りしを給へる

△本朝月令小宮史
記云神武天皇二十
年二月丁未山城
背國營賀茂神
宮と有る是宮
柱入敷奉始り
けり

あむ云へバ不得言小出てハ終へも盡し難し御事小
御在坐けり若此く其元の由緒有る地を後小トて
鎮り御在坐す事ハ外小例有る事
共小て假如ハ垂仁天皇廿五年御紀小爰倭姫命求鎮
坐大神之處而云到伊勢國時天照太神誨倭姫命曰
是神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可冷國也
欲居是國故隨大神教其祠立於伊勢國因興齋宮の于
五十鈴川上是謂磯宮則天照太神始自天降之處也
有て倭姫命ハ其所以を思ふ一召ず一宮都を定
奉りし給ひけり小己小皇太神の先小天降り御在
坐けり神地あり一あり斯る例猶多在りと雖も煩る
ハ一載さず 儲賀茂縁起奉氏本系帳等小其祭祀之日乘
馬至者志貴鳥御宇天皇之御世天下舉國風吹雨零百
姓含愁尔時勅ト部伊吉若日子令ト乃ト奏賀茂神之
崇也仍撰四月吉日祀馬繫鈴人蒙猪頭而駈馳以為祭

右引る卷上記小
ハ白上神記神等
の高鴨より移る
て給ふ御事同
年四月中内所
見たり

ハ右引る此事年中
行事秘抄の出し
又同記小

礼能令禱祀因之五穀成就天下豊平也乘馬始于此也
と有ハ謂ゆる賀茂國祭の起るる注式小引る小ハ
第廿代欽明天皇御宇二十八年丁亥と有り御紀小二
十八年郡國大水飢或人相食轉傍郡穀以相救と有る
此御時の事ふり公事根源小ハ四月中申日賀茂國
祭欽明天皇の御宇四月小吉日ハ始りて下はハハハハを撰びて祭らるる
と所見たり是公家より此大神を令祭らる始り諸
神記小天武天皇六年二月丙子令山北國營加茂神宮
社家説云當社鎮坐雖經年序天武天皇白鳳五年丙子
從被造營增有御崇敬と有り此ハ右引る引る四季物

語小當社ハ大和國高鴨小物ハ給ふを天武天皇の
六年小當る二月の頃此宮小移され定むと云事の據
あり續紀小元明天皇和銅四年四月乙未詔賀茂神祭
日自ハテ以後國司毎年親臨檢察焉と有ハ是其國祭た
る所以あり万葉六三十五丁小天平九年夏四月大伴坂上
郎女奉拜賀茂神社之時云々と云詞書有ハ其ハ國祭
小詔りれりハ可く當昔祭事の莊觀あり事
を知小足れり續紀小桓武天皇延暦三年十一月戊戌
朔戊申天皇移幸長岡宮丁巳遣近衛中將正四位上紀
朝臣船守叙賀茂下上二社從二位乙丑遣使修理賀茂

△續後紀小永和十
二年二月己酉朔壬
子鴨上下大神宮祇
宜外從五位下賀茂
縣主廣友等歿云

新田鴨川經上下二
神社指南流出而王
臣家人及百姓守取
鹿子安於此山使流
水上其未流來觸神
社因茲汚穢之

下上二社と有ハ遷都の御事小依テ松尾乙訓兩社と
共小預ルセ給ヘリあり帝王編年記小延曆三年是歲
賀茂下上社奉授從一位と有り又續紀小同四年十一
月庚子詔賀茂下上神社充愛宕郡封十戸後紀小同十
三年十月鴨神松尾神加階以遷都也丁卯と有ハ此時從一
位少ク編年記少クハ此十三年を三年と爲タル少ク
誤ル事灼然後紀小大同二年五月庚寅賀茂御祖
神別雷神並授正一位弘仁十三年甲午勅山城國愛宕
郡賀茂御祖分別雷二神之祭宜准中祀と有テ四時祭
式小祈年月次神嘗新嘗等の祭小次序ルレタリ又帝

王編年記小永和十年甲子十一月四日官符曰鴨上下
大神宮川邊河禁制狩獵と有テ右等ハ兩社小且テ御
事あるガ公家の御尊崇の厚ク御事ハ一也神代の所
由ハ然ル物少ク一ハ百王不易の宮都をハ大神
の敷坐す此國內小定マセ給ヘリを以テ猶下六百
九小兩社の御事を合セ注マセ見る可キ多ク七十二
又諸社根源記等ハ當國一宮と出たり野府記社本縁
御社者坐賀茂郷と見えたり御祖社ハ慕倉郷御在上
坐レバ神社の次第を云ハ下上と云ハ順ルレト
も賀茂の地名ハ此上社の地小在を以テ其本御事
を曉ル
○又神名式小賀茂御祖神社二座並名神大月
次相嘗新嘗
と所見タル此御祖神ハ賀茂別雷神の御母神小渡

せ給ふ由ある事已小傳十二百十五五丁三百五小條
小注一奉るが如く元曆奏上記小自神代所鎮上社事
代主命下社大已貴命而已と有然る事なれども御
祖神社と申す号も御在一坐が上小鴨氏人記又鴨神
饌記等小本社ハ姫大神を主神と一大已貴命と客
御前と爲るを以て同ト御妹妹の御中間ハ御在
坐せども此ハ其後神を主と爲て齋奉る御社ある
御事を先明しめ置べし者あり然し其二座並ひ御
在一坐す左方ハ御祖神一右方ハ大已貴神小
渡りせ給へりけり其證ハ二十二社注式小鴨号下
社

御祖神玉依日咩別雷御母と見え二十二社神体秘記
大已貴神別雷御父
小賀茂御祖神社二座玉依姫命大已貴命と有り是即
左右小東西小並ひ御在一坐す御事を見奉り知べき
明文あり者あり故此玉依姫命と申奉るハ八幡三所
の玉依姫命一即宗像三女神一渡りせ給へる
由傳十七五十八五丁五十八小注一奉るが如く神佛
六十四丁
冥應編一説小上賀茂宮味耜高彥根神中賀茂宮大
已貴神下賀茂宮宗像姫神也と云々中宮ハ上社一
次第て云々大已貴神ハ西方一右小御在一坐が
故小中宮小當り玉依姫命ハ東方一左小御在一坐

△猶證と爲べしハ
 皇宮攝神七社の中
 小玉玉社と申す
 御神本殿の西小並
 ひて玉垣内御在
 坐を美上記小
 下社所攝有靈玉
 皇社初明玉之神
 名神秘而見神之
 縁神也と云ふ瑞
 珠盟約章第一書
 小玉玉鳴神格昇
 天時有二神号羽
 明玉此神奉迎而

を以て下宮小當はハ右小玉依姫命大己貴命と有
 小違ハズ東寺藏古文書小元久元年三月五日左辨官
 下物山城國松尾社中略當社者鴨御祖社之御同体朝家
 第四之靈社也下略と有ハ傳廿六百八十一丁注せり如く
 松尾神社二座ハ大山咋神と胃形中都大神と云て渡
 へ給へる其大神の御事を鴨御祖社之御同体とハ
 載とせ給へる者少の然るを昔より賀茂別雷神を丹
 塗矢小化坐る火雷神の御子と一此御祖神を建角身
 命の御女と云建玉依日咩命の御事と爲る事なれど
 其ハ甚く誤れり者少し己ハ山城風土記小可

惟又瑞八及建角身玉故去交鳴心持其瓊玉而到之於天上也云云而天照大神別以八坂廢之曲玉落寄於英上具

茂建角身命也丹波神伊可古夜日賣也玉依日賣也三
 柱神者兼倉里三井社坐也と有て即神名式小謂ゆる
 三井神社名神大月是ふる事傳廿六二百十丁小注るが如
 又此小玉依姫命と申す一社有り即上社賀茂別雷
 命亦名事代主神の后神小渡へ給ひて此一書ハ事
 代主神化ハ尋熊罴通三島溝攝姫或云玉擲姫と此亦
 名を地神本紀小活玉依姫と有、是より即神名式小
 鴨川合坐小社宅神社名神大月次と有る御神ふる由
 上六百十一丁小明の奉る如くふれば同ト兼倉里ふる
 下賀茂の地小同名ありて玉依姫命と申す三所小立

せ御在り坐すと雖も各其正身ハ別小御在り坐り思
混ふ可く但其三柱の玉依姫命共小皆が上社
御祖神社の主神と爲し御在り坐す玉依姫命亦名姫
大神ハ其別雷神の御祖少く渡り給ふ御事ハ
申す限小非ず次小三井神社小御在り坐す玉依姫命
賣命ハ其事代主神の射放た給へ丹塗天小
娶奉りく謂ゆ片山日子神を生奉り給ひ川合社
小御在り坐す玉依姫命ハ事代主神の後神少く
渡り給へり故此御祖神社の主神ハ玉依姫命なり謂ゆ
宗像姫神少く御在り坐す御事を定置て鴨氏入記
又鴨神饌記等を閱り小御祖大神宮中日女大神を神
日本磐余彦尊右高皇産靈尊客御前大已貴命と所見
たは是を以て御祖大神と申奉りハ日女大神小御在

坐て右の玉依姫命あり事著明然時ハ神日本
磐元曆奏上記小鴨御祖皇大神宮三座中所祭兒神素
彥鳴尊元神皇産靈尊右大已貴命也と見え吉懐記小
中兒神素彥鳴尊元大已貴命右皇産靈尊と有て同
ト説ふが奏上記小欽明天皇廿八年四月中西自大
和葛木鴨逢日村社本所祭三座兒神皇兒神以味高彦
根命陪之地依神宜迂山代別雷山遺味高彦根命止
葛木鴨吾勝尊與兒神至祭於山代以皇兒神忍德祭上
社以兒神素彥鳴尊祭下社と所見たは此兒神の下小素彥
鳴尊と注せらハ其兒神を一も素彥鳴尊兒と云義小

て即右の日女大神の御事小御在坐を傳誤れ
る者あり示さざりし時ハ其素戔鳴大神を以て兒神と
申すハ二柱御祖神小係て申さずしてハ聞えぬ事な
らば上小佗小例も無き事なればあり且其兒神を
も素戔鳴尊と爲る時ハ其主として齋祀ハ御祖神社
と稱奉る其實を失ふ事なりければ必賀茂別雷神の
御母と御在坐す件の玉依姫命小渡りて給ふ御事
鏡小係て見奉るが如くあり有ける但奏上記小自神
代所鎮上社事代主命下社大己貴命而已と有る小
大己貴命ハ此小容御前して御在坐を見奉る小此

兒神ハ一も猶其よりハ出以前小御在坐つるを
右の趣少くハ欽明天皇御世小遷り奉りて狀少く此
も亦右の御祖神社と申奉る社号小違へるが如く小
を以て考る小此時天忍穗耳尊ハ一も別雷神社の
相殿小移りて御在坐せしハ瑞珠盟約章第一ノ一書
小謂ゆる天孫奉助而爲天孫所祭也と有て其皇兒神
小副御在坐せし御靈も諸共小御在坐して一も成
りて御在坐す御事を下社小初て齋奉る物の如く
傳ハりし事とあり所見なりける其兒神と申奉るハ
常小三女神と申奉る小其意味同トクハ可一其正書ハ是時天照太神又
初日其十握劍者是素戔鳴尊物也故此三女神悉是尔

兒使授之素戔鳴尊此則筑紫胸形君等所祭神是也
と所見にも是即兒神と申奉る所以なる者なり若
此小素戔鳴尊の御在り坐すハ神名式ハ謂ゆる出雲
井於神社大月次相嘗新嘗と有る是ハ此地の地主
神なり御在り坐せば遙小遠に神代りの鎮坐し
て此時小移りせ給ふ可くも非れば愈兒神ハ素戔鳴
尊小御在り坐ざる事著し其御社の
御事ハ傳廿三卷三百廿八丁小なり故其日女大神を
中座と爲て並び御在り坐す左方神日本磐余彦尊の
御事ハ元曆奏上記にも載す況て吉懐記の説ハ多く
ハ其記小因れ故小此を載すと雖も鳴氏人記神饌記
等小書す所ハ今現小齋仕奉る状を以て云る者小
在ければ其必然しも非りけりとい何でくハ云消る
可き儲又諸社記傳集と云小社傳云西方神武天皇也

東方五十鈴姫也と有て上古より御在り坐す神等を
差置て右の二柱との云ハ甚異コトりざる事かぐら
其し實ハ此小齋りれとせ御在り坐を以て然云説
も有るけり其合せ祀れると思へハ鳴神饌記小
三所若宮を綏靖安寧懿徳と此三所の天皇尊等を齋
奉れり由るハ其左方神日本磐余彦尊小對へ奉れ
る本説なるが其一説小三所若宮中神武天皇荒魂左
皇后荒魂右綏靖天皇と有て神武天皇と皇后と二柱
の荒魂を此小齋奉れり由るを以て本宮小天皇と
皇后と二柱を齋奉ると云ふ一説有るを知べし然る時

今本朝改元尊号
小御所天皇御
座武城鬼門下知
茂

ハ其厄方神日本般余彦尊と有。一座の中、御夫婦
共小相俱ひ御在坐へ。御事申すも更ふり色葉字
類抄小若宮社の号有を以見。小己小六七百年の先
小右の御神等を齋奉り。ゆりけり斯れば本宮小
神武天皇を齋奉り。猶其より以前あり。御事を知
べし。但二十二社神体秘記小賀茂別雷神社一座中略加
祭神一座神日本般余彦尊と有。上社小合せ祀る。と
云ハ決り。此御祖神社の御事と混ひ。ゆりけり。上社
小此天皇の御在坐と云ハ。佗小所見無。由上十六百
十六百四小注。奉る。如。但其三所若宮の御事小
十六百小注。奉る。如。但其三所若宮の御事小

今又説小若宮坐
本宮西瑞籬坐
坐中社也。王依
右宮。神。坐。中
社。御。事。申。上。記。小
御。祖。東。社。比。咩。神
とも云り。下。三。百。四
八。丁。小。注。奉。る。如。
社。右。宮。小。淡。路。國
生。穂。莊。比。野。社
と云。有。を。以。て。小
神。武。天。皇。の。御。事
名。を。授。野。尊。と。中
御。事。申。上。記。小

瓊：杵尊東事代主命西神日本般余彦尊と有り。右の
中。小。事。代。主。命。を。若。宮。と。申。さ。む。ハ。御。祖。神。社。王。依。姫。命
大己貴命小對へ。然事ハ在れ。其ハ上社の
御神小渡。給へ。此小若宮と申。事如何か
り。入瓊。杵尊を然申せ。右小注。如く兒神を
直小素戔鳴尊の御事と爲。出たりと聞えて甘
ふ。難。若。其。右。方。高。皇。産。靈。尊。の。御。事。ハ。奏。上。記。小
ハ。左。神。皇。産。靈。尊。と。上。社。の。左。方。小。高。皇。産。靈。尊。ハ
御在坐。由小云り。吉懷記小。右方皇産靈尊と書
せ。ハ。右。の。如。く。高。皇。産。靈。尊。と。神。皇。産。靈。尊。と。傳
はり。其。説。未。定。故。小。何。方。へ。も。外。れ。可
く。書。せ。者。と。所。見。な。り。借。奏。上。記。小。神。武。天。皇。東。征。之
後。以。高。神。皇。産。靈。尊。祭。上。社。共。以。下。社。爲。祖。爲。父。と。云

事所見たれども其^思甚^思也東無き事あり其下文が欽明
天皇二十八年四月小皇兒神の上社小兒神の下社の
迂し給ふ御事を云ふ所小一時高皇産靈尊出現上
社神護山之名自此始焉と云事有れば此御時よりの
御事と爲む然れども古記小此を考ふ可くさるる
あり且神護山と云名ハ賀茂山を神護山カムモリヤマと云意ハ取
成たる者あり殊更ハ後世の俗意あり然れハ両社
共小皇産靈尊の御在—坐と云事古小係てハ見る可
くさる者あり—諸神日本磐余彦尊又白皇産靈尊
等を齋祀根元を探索る小此ハ中古小御祖と申す

ハ女祖と云ふ本説を失ひつる頃間より出來かけ
—天孫降臨章ハ故皇祖高皇産靈尊と有る皇^祖粗も
美意夜と訓む所あるが故小此御祖神社と申すも皇
祖の御事ありむと云ふ疑の出來起れり—古^よ
り祭來る神の中小皇祖ハ當べと御神の御在—坐さ
るを以て俄小思立て私小神日本磐余彦尊高皇産靈
尊等を合せ祀れ御事と所見なり其ハ朝命の下れ
る小非ず社家より奏聞えて定のなる小も非れど
も時勢小連て然しも成れ御事ありハ古小叶ハず
として今—も私小如何ハ捨べき是將然る皇神等の皇

基を守護奉るを給ふと爲て鎮坐るる可なり
ハ今ハ今テの所在小從奉るるも神少も若少も背の
所爲るる
記傳十二卷四十六丁小此下上賀茂社今京と成て皇朝の尊崇び坐す事伊勢小亞て比無き故小彼別雷神ハハ非ドクと嫌ひて或ハ秘事ありと云ひ或ハ上ハ瓊杵尊下ハ神武天皇ふど申す事の聞ゆハ由ハ無き事あり公家の尊崇ひ坐す事の重きハ皇京の守護神小坐故小ころ有れ必し其神の本の尊崇昇りし小の依事ハハ非ず云こと云れたる其意味無きハハ非れど云難くあり
諸其客御前大已貴命の御事ハ右小注るが如く此御祖神社ハ別雷神の御母玉依姫命を元來齋奉る御社あり故小其日女大神あり此ハ主神少く渡りせ給へるを以て大已貴命ハ其妹

神少く御在り坐せし客坐るる故右小別注式秘記あり少も玉依姫命ハ一也老りて大已貴命ハ右あり吉懐記小兒神を中りて死を大已貴命と爲るハ事違ふ可し諸奏上記小自神代所鎮上社事代主命下社大已貴命而已と云るハ必下社玉依姫命大已貴命而已と云ずしてハ御祖神社と申す義明らありご者あり諸此二大神の鎮り御在り坐す始ハ如何と考る小上三十三丁小注一奉るが如く古丹波國ハ大なる湖ありける小大已貴神其御子大山咋神及八神を鎮て出雲國より御在り坐て大山咋神を山を劈り水を

通して其國を作ると御在り坐て已命ハ其御執り
御鋏を神体として鋏山神社小鎮り給ひ其御子大山
咋神と御祖胸形中都大神とハ御鋏を御霊と爲て松
尾神社小御在り坐けるを後小山城國松尾神社小齋
とれさせ御在り坐ければ事代主神と御祖命と二柱
神の御霊ハ此時より此國小留りさせ御在り坐ける中
小事代主神の御鎮坐の由來ハ右六百五十九丁小注るが如
くあるを日女大神ハ其任此小鎮り御在り坐ける小
大己貴神ハ事代主神の宮居を別當山番小定めらせ給
ふ御時小至りて此小合せ祀らせ給へる者と所見た

り此所小神代より以降御祖神社の御在り坐ける證
右も引る本朝月令小官史記云神武天皇十一年三月丙午令山背國營賀茂神宮之見
上四百六十六丁小引る鴨脚家系小味高彦根神十四世
孫田主臣從景行天皇征筑紫國中賜姓秀久良縣主至
後以秀倉称立藏下と有る秀倉ハ神社の義あり和名
抄小寶倉漢語抄云寶倉保久良一云神殿と有る是あり
景行天皇の當昔此小秀倉の称有ハ其大神の宮居世
小名高りりけむ御事を知へ後世小立藏と改たる
ハ同ト神殿を云中あも字の寶倉と書か如く抄を立
て升る物あるが故小字の如く立藏と云く四方小聳
ゆる程小神殿の巖めりりりてを云称ある可然れ

和名抄郷名小愛宕郡蓼倉多天久良と云ハ其本義を失ひ
て後小改つる字あり事灼然者あり然時右小引る
奏上記小欽明天皇二十八年小兒神の始て移る也御
在し坐ける狀小云々思を及す可事小あり有
け然時ハ蓼字ハ後ハ多傳と濁りて云事あり
事ハ上三百十九丁小注るが如く皇仁天皇八十七年
御紀小石上神宮の御事を大中姫命辞曰吾平弱女人
也何能登天神庫耶五十瓊敷命曰神庫雖高我能爲神
庫造梯豈煩登庫乎故諺曰神之神庫隨樹梯之此其縁
也と見え丹後風土記小迦佐郡高橋郷所以号高橋者
天香語山命於倉部山尾上創營神庫以收藏種神寶
設長梯而爲到其庫之料故云高梯今猶峯頭神祠称天
藏祭天香語山命と有る此等ハ神庫と書て保以羅と
訓む事あり皆皆上件注るが如く賀茂ハ別雷神
神社の御事を云り

社を本より其小對へて御祖神社ハ御在し坐す御事
ありども御祖神社ハ其別雷神の御父母より渡る也
給へるが故小下社上社と次第られたる事古書の趣
是より偕天武天皇六年小神宮を造替せられしより
下上兩大神共小大同二年小正一位小至る也御在し
坐す迄の御事ハ已小右六百六十五丁小注し奉るが如く續
後紀小仁明天皇養和十五年二月辛卯朔辛亥正一
位勳一第賀茂御祖大社祢宜外從五位下鴨朝臣廣雄
等欸云去天平勝寶二年十二月十四日奉充御戸代田
一町自尔以降未被奉加因茲年中用途之少望請准別

雷社加増御戸代田一所勅許之と有を見れば已く天
平勝賢小御戸代を被進しりけり又三代拾承和十
一年十二月廿日太政官符小雁谷神戸百姓護鴨上下
大神宮邊川原并野事西至御祖社東限寺田 南限故
參議元近衛大將大
中臣朝臣諸魚宅北路未西限百姓宅
地并公田北限槐村下里南畔并寺田別雷社東限路
并百姓
宅地南限道并百姓宅地公右得山城國解你依太政
田西限鴨川北限梅原山
官去十一月四日符仰愛宕郡司令禁護伴社邊河而郡
司解你郡中住下數少無人差充望請以在此郡神戸百
姓分番令禁守若致汗穢永出神戸以公戸氏相替補入
者國加覆審所陳有實謹請官裁者左大臣宣依請と有

是より其方境詳あり者あり其後益々廣く大小成
けり賀茂部類小下社鴨社亦曰下賀茂社社家説云
下社昔地廣大而兼倉郷御鷲社田中村等悉神地也御
本社在此良本社西其地今御社北五六町高野川西也
土人蘇波陀之社と所見たり上社の西限鴨川ハ今の姿
小異り可一北限梅原山ハ後紀小延暦廿二年ハ
月庚寅幸梅原宮と有る此地あり雍州府志小梅辻土
人呼曰東賀茂長享二年十月傳奏奉書案賀茂境内小
山郷之内号梅辻と有る此傍と見ゆ臨時祭式小凡鴨
御祖社南邊者雖在四至之外濫僧屠者等不得居住の

と云事も見元なり仁明天皇天長十年十二月癸未恐ければ今此を思ふ續後紀
朔道場一處在山城國愛宕郡賀茂社以東一許里本号
岡本堂是神戶百姓爲賀茂大神所建立也天長十年檢
非違使盡徒毀廢至是勅曰佛カ神威相須尚矣今尋本
意事縁神カ宜被堂宇特聽改建有て百姓等カ大神
の爲道場を措けるあり濫僧此所を得く物爲つ
るを御祖神の崇へせ給ひるの御事の御禁のハ
有ける小儲吉記小或古記云平安京者百王不易之都也
東有嚴神西仰猛靈嚴神者賀茂大神宮猛靈者松尾社靈
是也依二神之鎮護期万代之平安然則永不可遷宮
と云事有り東小賀茂下上宮西小松尾神社共小神代
イリ以降宮處を定り御在一坐る神境ありける皇
都を其地小移させ御在一坐ける天地の共易べる

しぬ大宮此處と定りせ御在一坐けるふ然る可き
神代の幽契の御在一坐ける賀茂松尾の兩社東西小
御立一御在一坐て御尾前と成るせ御在一坐て皇基
を守護奉へせ給ふ御事ありハ實小皇祖天神の神量
と國津御神の御心小因り者ありて甚く幽深き致
ある御在一坐す御事ありける所以小伊勢神宮の
御事小准へて齋内親王を奉へせ給へり是崇神天
皇六年御紀小以日本大國魂神託淳名城入姬命令祭
と見え重仁天皇八十七年御紀小大中姬命を以て石
上神寶を令掌給へる御例と聞ゆ儲此齋王の起を昔本朝月

△今又説云嵯峨
天皇與平城天皇有
隙不穆一時嵯峨天
皇祈禱有感初
奉齋王云云有
れども

平城天皇を嵯峨天皇と大御位の事御在（レ）坐（レ）嵯峨
天皇の御祈の御事御在（レ）坐（レ）其皇女有智子内親王
を奉（レ）給へる是始多りと云ハ然る事多きが御事
の御祈と云事決（レ）らず己小大同二年小正一位小進
奉（レ）給へれども猶飽（レ）ず思（レ）り坐（レ）其上の御
會釋（レ）實ハ大同天皇の御心（大）小起りて弘仁天皇の
皇女より始（レ）ハ成れ多かる可（レ）齋院司式小元天皇
即位定賀茂大神齋王仍内親王未嫁者ト之（若無内親
王者依世
次簡諸女
王ト之）と有（レ）萬の御事共齋宮小准（レ）又忌
詞有（レ）元忌詞死称直病称息泣称鹽垂血称汗完称菌

扨（新）墓称壤と見えたり是齋宮寮式小謂（レ）外七言
あり詞花集小選子内親王賀茂の齋（白）と聞えけり時
小西小向ひて詠給へる思へども忌と云ぬ事ふれ
ハ其方小向し音をのり泣くと有（レ）見れば式小ハ
書されぬども内七言の御慎（レ）最重小御在（レ）坐（レ）
ありけり齋宮寮式小元忌詞内七言佛称中子經称漆
紙塔称阿良岐寺称瓦喜僧称髮長尼称女髮長齋称
片膳又別堂称香燃優婆塞称角筈と有（レ）是（レ）王勝
間橋
卷小右の御歌を擧て云く元（レ）伊勢賀茂の齋王の宮
小ハ甚トク佛を忌て其筋の事を詞小云をだ小禁
小ハ其レたも御定あり然（レ）小皇國人ハ昔より高
き小昇（レ）とも賢（レ）とも愚（レ）とも佛を信せぬ人ハ世小

其齋王の御事
唯神一已の御過
御在り坐け此が奉
饗國の煩くも無
故
改見直開
方も有と

一人も無りトけれバ齋王の居給ふを罪深き事少
て歎給へる習ひありと然れど神小仕奉給ふ御心の
忠く御在せむハ其忌嫌給ふ節を係ても思
寄べき事ありぬを西小向ひて音小泣給ふ許あり
ハ云む方無き狂事少く有ける然てハ御姿の限り
皇神の齋王御在し坐て御心ハ專極樂の内ハ
陀の齋王御在しけれ然も少ても御心の内ハ
ハ自然思事有む少ても公の重き禁められ
歌ふハ詠頭ハ給ふ可きハ非ず假令詠出たり
も必人ハ詠頭ハ爲給ふ可きハ非ず御耻とも思
さずや有ける然れど此親王の御谷ハ非ず
甚も可畏く神を忘れ奉りて唯一向ハ佛の教を尊
之行ふをの甚ト事ハ斯ハ筋を却りて心
深く哀ふ事ハ並て人ハ思ハ世中の習あり
うバグクハ云こと云れたるハ此親王の御事
歎られたるハ非ず並ての世の殃を除くむ
言立られたるハ非ず並ての世の殃を除くむ
少や有ける神國の風儀を乱り天朝の嚴禁を犯
異賊ハ國を汚り衆虜ハ睦を厚くして終ハ古より見
りりハ國辱を万國ハ示す事と成り皇御孫尊の

ハテも賢臣良將
の出て然り悪弊
を改め神世の遺
訓の任小政を給
ふハ天下小人無
然計り愛たす時
世小過ハ

御尾前と爲て夜晝の守護可畏我大神の如何悪
せ給ハごむ時ハ安政七年三月三日今日時ありぬ
雪の混ひ小然ハ妖賊の義使の爲ハ討ハ墨夜
の曙ハ思を成して天津の御光得堪神皇の
御爲如何ハ悦バ同式ハ允齋王毎年四月中酉日参下
上兩社祭と有て是ハ齋王の一年の内ハ甚ト御政
小御在り坐け。儲當社の御祭ハ中祀の部ハ收
りて國家の重事あり上六百六十四丁小注ハ如く四
月中中日賀茂國祭と云有り公事根源ハ今日の國祭
ハ賀茂の本祭あり可き少や酉日の祭ハ公家より使
を立りれ走馬を献る相異ハ可きありと注されて
欽明天皇御世よりの例あり松尾を上申小日吉を申

申小祭より三所共小同神少御在坐故小
申日を令祭より故實と所見なり然して其中酉日
の賀茂祭もむ公家の御祭ありける公事根源賀茂祭
條小昔夢の告侍あり今日人々葵挂の髪を掛ふ
り賀茂松尾の社司前日より然可き所へ奉る欽
明天皇御宇より此祭ハ始よると有り其夢の告の御
事ハ傳廿六二百九丁小注るが如く賀茂舊記本朝文集等
小彼玉依日賣命の御子生給へる所ハ於是欲知其父
乃造宇氣比酒令子持杯酒供父此子持酒振上於天雲
而云吾天神御子乃上天于時御祖神等戀慕哀思夜夢

天神御子云谷將逢吾造天羽衣天羽裳炬火擊鋒又飭
走馬取興山賢木立阿礼垂種緑色又造葵楓嚴飭待
之吾將來也御祖神隨夢教令被神祭用走馬并葵縵此
之縁因也山本坐天神御子称別雷神と有る是より山
本坐天神御子ハ式の片山御子神社大月次相と有る
嘗新嘗
是より謂ゆる片岡社の御神小坐を續けて称別雷神
と云ハ似たる事ありし附添たるあり誤る事傳
十二九丁廿六二百一丁小辨たる如きを此祭ハ正小其
神小依り起れる事右の文より明らかり然る時ハ
神武天皇御世より始れる者あり然るを右小欽明天

皇御世より始り由小宣へるハ右六百六小別賀茂縁起秦氏本系帳等小其祭祀之日乘馬無者志貴鳥御宇天皇之御世天下舉國風吹雨零百姓含愁尔時勅下部伊吉若日子令卜乃奏賀茂神之崇也仍撰四月吉日祀馬繫鈴人蒙猪頭以為祭祀略と有を見ら小當昔已く廢たり故小御崇御在卜坐ければ此小於て山背國祭と爲て被行ら小就てハ主と兩神宮の御祭の狀小ハ成れりけむ其山本坐天神御子の丹塗矢の化れ火雷神の御子小ハ御在卜坐せども其物實ハ別雷神の射放させ給へるハ其所縁を以て祭られ給ハ

む御事ハ其謂れ無ハ非ずあるむ有ける右の公事根源の趣を以見る小其時より中申の國祭と中四の公家よりの御祭と己小相別れなりけむ國祭ハ專兩神宮のを主と一酉日あるハ專片岡神の祭を主と爲しれけむを今京小成て兩宮の御崇敬愈厚く成りし片岡神の御事ハ却りて人も知ぬ事ハ成れりとも猶其祭名を御阿礼と云ふのより其故實ハ失果げりけり大同類聚方六十四卷催生藥の中ハ二葉藥山城之加茂之御山之阿布比草平水亦火大之天阿礼介乃時宇川留毛能波也女亦用干倫礼婆卒尔宇未流止其神乃宮造奏之有催生ハ阿礼介と云て産小臨て其萌有を云あり又此葉草を用て其藥と成りて以て此賀茂の御阿礼の本ハ

△天本集小季經神
頃小掛を葵の三葉山
幾羊神の露掃
うぐいし有る右
の三葉草小依て二
葉山ニ云あり

其神片山御子神の御阿礼坐一
故事小起水を見奉り知べし
御事ハ右小正一明の仕奉るが如く上代の状ハ賀
茂別雷神社ハ即事代主天神小御在坐一御祖神社
二座ハ玉依姫命大己貴命二大神小渡を給ひて即
其事代主神の御父母少御在坐若て同郡出
雲井於神社大月次相嘗新嘗ハ素戔嗚大神小御在坐す事
傳廿三三百二十八丁廿八十丁小注一奉るが如く此地の地
主神小渡を給ひて謂ゆる祇園神社の本是より借
事代主神の后溝織姫命ハ上六百十丁小注一奉るが如
く鴨川合坐小社宅神社名神大月次と有る是より所
相嘗新嘗

以小神社啓蒙小上賀茂社官参嘗之日先詣此社而後
拜御祖蓋有社例傳習也と云り今ハ御祖神の攝社ふ
物りス斯く傳習の有る事全く別雷神の后神と坐
が故小殊小親一會釋ひ奉來る古例小依る事と所
見たり次小賀茂山口神社ハ大山祇神小御在坐せ
ハ溝織姫命の御父神小御在坐して事代主神の御爲
小ハ婦翁小渡を給ふが故小上五百九十四丁小注一が如
く攝津國島下郡三島鴨神社伊豫國越智郡大山積神
社名神大伊豆國賀茂郡伊豆三島神社名神大月次新嘗共小事
代主神大山祇神相並はせ御在坐す例を思ふ可し

三代實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授山城國正
六位上鴨山口神從五位下と有の多し貴布祢神と
共小名神大社の例小預り給はるる遺憾と御事
ありけり同郡貴布祢神社名神大月次新嘗ハ閻靈神小坐て
大山祇神の後溝檄姫命の御母小御在り坐て三島溝
檄耳神の御事あり由傳百三十一丁十一三十一丁上五百九
小注一奉るが如く又同郡須波神社ハ事代主神の異
母弟健御名方神小坐て事申すも更あり名跡志小諏
訪社片岡社共在上社本殿親樓門前外河東南方片岡
東諏訪南而橋殿次也と有り又上四百七十二丁小注るが如

く同郡太田神社ハ事代主神の御子天日方奇日方命
少く渡りて給ひて大和國葛上郡(賀)鴨都波ハ重事代
主命神社二座並名神大月次相嘗新嘗多オホタ太神社鉦相並び攝津國
島下郡三島鴨神社太田神社見え近江國高島郡箕島
神社太田神社並坐る例あり吉懷記ハ太田社在上社
本殿東南五六町許山麓猿田彦神天鈿女命と云ハ
伊勢神宮の書共小大田命と云有て其を猿田彦神の
亦名と有より此説ハ至れり其由無き事小
ハ非ず右六百五十五丁小注るが如く事代主神小猿田彦神
と申す亦名御在り坐けるを後天孫を天八衢小参迎

奉りて高千穂峯小導奉給ひけり其より天鈿女命
其神を送りて謂ゆる神代浦小御在り坐り坐り傳
つ有ければ然し云つ可き事かぐろ大田命と申すハ
其天日方奇日方命命して渡りて給へる事上五十二石
部氏の事を云ふ小合せ考ふ可き者あり今世人
當社小就て安産を祈りて靈驗の御在り坐を以て
其御祖ハ子守神と聞ゆる溝楯姫命命御在り坐せば
水分の略の許古母理と子守と義理ハ違ふ事なれども
御心廣き神の御上りてハ人の任小從せ御在り坐
へり御事申すは更なり元又經家集注小入皇七十四代鳥

羽院治十三年庚子天永三年官符預案上官幣と有て
此時大社の列小上奉りて給へり元經家集小建保五
年心ち例ありぬ事大事小侍りし思係隣家小侍
り伎祢託宜有て太田社小今夕の内小歌合ゆて
奉たハ平愈有へ由申侍りしハ奉侍りし社頭
述懷伏て向ふ心も苦し明日よりハ太田の杉の驗頭
ハセ此歌合病の筵小沈みから詠む次日より
平愈侍りしと有り如此く諸國ハ賀茂神社ハ多く坐
せども事代主神の御父祖四世の神等並御在り坐て
足ぬ事無く御在り坐す神境ハ然ハ云へ天下小ハ此

△下社比良本社の攝
社小杉尾社本社
小在り又
△史官記仁平三
年十月廿七日條
賀茂別雷社司言
上九月廿日申時大
風御寶殿之前奉
祝禰尾明神云々
△此神宮の御
爲小八止上事無

山城國のこり有けり
又御祖神社の荒御魂ハ謂ゆる
御蔭社小御在り坐ふるや其
ハ傳廿六卷二百二丁小引右記寛仁二年十一月
廿五日條小昨日下社司久清進解文尋田記白皇大神
初天降給小野郷大原御蔭山也と有て其所祭神二座
御在り坐す由ふる小四月葵祭の日下鴨の御神此所
小御館幸の御事御在り坐と云り凡て御蔭社と申す
ハ其荒魂神を祀り社の称ふる小其所祭神二座ふる
小も合れバあり但此地元ハ玉依日賣命の片山御子
を生坐る地ありむの考も有て其所小注り後人能
考定む可き者あり儲右の如く事代主神の御旗の神
等大抵ハ此小御在り坐ふる小唯下照姫命の御社の
御在り坐ふる小不審一く考ふる小上社の末社の中
小杉尾社在本殿傍坤四足門内と有る是の其社上百
九十六丁小注御魂命如く播磨國多可郡加都良乃命神
社と云有ハ天推考ふるむの考有る小又二百十六丁
小注る阿波國勝浦郡勝占神社坐を今杉尾大明神と
申す此と等しく所思ゆれば出雲國出雲郡阿
須神社同社天若日子神社並坐を思ふ小此も其神
祀ハれせ給ふ可けれハ必下照姫命と坐るむを

△御神の渡り給へり

△釋紀小引小八藝
合名三井社社三
身者賀賀茂建常身
命也丹波伊可
古夜日女也玉依
日女也三柱神身
坐故号三身社今
訛三井社と見え
たり建常身命西田伊
可古夜日賣命今在
玉依日賣命今在

何れの求儲又山城風土記等小彼玉依日賣命の丹
塗天小娶て生坐る御子と上社の御神別雷神の御事
と傳誤れるが實ハ其神ハ山本坐天神御子と申し
て謂ゆる片山御子神社大月次相小御在り坐て野府
記小所見たる片岡神是ふる由傳廿六二百丁小注るが
如一其御祖の御事ハ風土記小可茂建角身命也丹波
神伊可古夜日賣也三柱神者蓼倉里三井社坐と有る
是即三井神社名神大月の御神少く渡り給へるを
其片山御子神を別雷神小混へて上社の御神と一此
御祖神と御祖神社の日女大神と同名ふる故小下社

の御神と昔より心得る事の誤る由ハ傳廿六二百六丁
 上六百四十七丁小委一く注小奉る如一又釋紀小賀茂建
 角身命大和國八咫鳥神社山城國愛宕郡久我神社三
以上鎮座三箇所
 井神社と有る其大和を移して此あり元曆奏上
 記小下鴨所攝有小鳥社八咫鳥之と申す有り百練抄
 安元九年十月廿六日條小鳥明神と出吉懷記小ハ
 小鳥社在河合社建角身命之荒魂と書せる是あり右
廻節内
 の久我神社ハ御祖神社の北ハ在り風土記小謂ゆ。
 久我國之北山基是あり三代實錄小貞觀元年正月廿
 七日甲申奉授山城國正六位上久我神從五位下と見

△又二社ハ訓郡久
 我神社坐ト同神
 あり

の以上三社の説あり然して風土記小妖王依日子者
 今賀茂縣主等遠祖也と云る妹ハ其妹玉依日賣小對
 云あり右六百四十六丁小巳小引る姓氏錄山城國神小西渥
別天神
 部鴨縣主同祖鴨建玉依彦命之後也と有る同國天孫
 土師宿禰天穗日命十四世孫野見宿禰之後也と有れ
 ハ其土師宿禰の部あり可き西字を加へたるを見
 小東渥部と云一族も有ある可し神名式小賀茂波
 尔神社御在一坐ハ土師宿禰ハ出雲臣の族なり大巳
 貴神小ハ甚止事無くハ有れ此ありハ其渥部の
 祖あり建玉依姫命の方あり可くや上社の攝神小土

師尾社在津北之此所申す有る是ありと云り是同郡同地なり

同名の神等も有て混れ易き故に此因ふ擧て人の惑

を解の儲又云ふ彼風土記謂ゆる丹塗矢ハ賀茂

別雷神と同神少て松尾大山咋神の射放た

せ給へり然り其丹塗矢と化と御在り坐りハ乙訓坐

火雷神社大月次新嘗と有る此御神多り其御子神ハ

片山御子神社小御在り坐り御祖神ハ右小謂ゆる三

井神社是なり然るを吉懐記小片岡社大己貴命と云

るハ其據○神名式山城國乙訓郡大井神社丹波國

桑田郡大井神社の社傳小松尾同体と云り然り時ハ

大山咋神小御在り坐り右小謂ゆる事代主神の御事

あり何を以て大井神と称申すと云ふ上三十三丁小古記

を擧て注るが如く古丹波國の湖あり一時亀尾松尾

の二山を穿劈て大井川を通り給ひ水を落して其國

を作らせ給へり小起りて諸國小在り大井ハ全く

此神の御功小依て成りたり此一書化ハ尋熊鷹通

三島溝檝姫と有る水理を能治めさせ給ハむ為小娶

らせ御在り坐り御徳を合せ御在り坐り其事を成就

さく御在り坐り神量小出たり由右五百九十六丁小注るを

以て曉る可き者あり然れば其水上の丹波と水下の

山城と小御靈を分させ御在り坐り可き小同郡石

井神社皇太神宮儀式帳小據て考る小其管社小石井

神社大水上兒高水上命形石坐と有て大水上命ハ其

御祖闇靈神小坐一高水上命ハ彼溝楨姫命小渡ルセ
給ヘ^①由右^{六百}小^{四丁}ヲ以テ其所以有^事ヲ曉
可一^{同郡小倉神社}大月次^{新嘗}ハ其御祖闇靈神小渡ル
セ給ヒ自玉手祭來酒解神社^{名神大月次新嘗元名山塔社}ハ大山祇
神小御在^{一坐}セハ溝楨姫命^{の御祖}少^渡ルセ給ヒ
又神川神社を考證^{小水分神}今俗謂賀茂川^村者神川之
轉也此村有神社称住吉と云も由有^小神足神社ハ
上^{九十}小^注ガ如ク丹後國熊野郡神谷神社の例を
以推^小決^大巴貴神小坐ベ^ルも事ハ考證^小今在
神谷村向日明神之巽也と有^多理^{と多}理^{と等}一^也

△七十九丁注カカ
ク知名秋加賀國江
沼郡此月郷有^三
代實録小貞觀大
年七月廿日丙申授
賀國正六位上山代
大堰神從五位下
有^六式外^右の
大井神社^右の
可

を以て曉^可一^{文德天皇實録}小齋衡元年十月戊辰
以山城國神足神列於官社と所見たり又與杼神社考
證^小今云水垂明神肥前國與止日女神社と有^其說
の如クハ上^{二百三十一丁}小^注ガ如ク玉依姫命小
御在^{一坐}セバ右の神足神社與杼神社ハ右の大井神
と聞ゆる事代主神の御父母小^あ毛渡^ルセ給ヘ^リけ
但右の與止日女神を旧說ハ八幡神の叔母ありと
云ハ何の據も無^キ說あり予ガ此^小云^所ハ尾張參
河兩國の風土記^小徴^を取^リ諸書^小考^合セ^テ云^所ハ
次^上大井神社^小就^テの說^{あり}ガ右の神川神社も
本神と云言の音轉^ふルバあり△
社二座^{並名神大月}ハ大山咋神胸形中都大神と二柱
次相嘗新嘗

小御在り坐て其大山咋神ハ賀茂別雷神と同神小御
在り坐て事代主神少く渡りて給へる由緒又此神社
小属たる故事等已小傳廿六百五十二丁百八十一丁小委一く注
一奉承くバ今言舉奉り可き限ハ非るなり○紀伊
郡飛鳥田神社一名柿本社真幡寸神社二座此二社の御事後
紀略小弘仁七年秋七月乙酉山城國紀伊郡飛鳥田神
真幡寸神預官社例並鴨雷神之別也と有る此飛鳥田
ハ飛鳥戸ふどく同トくして次小云ふ大和國飛鳥神
社の御戸代田ふどりの有る縁れり少く柿本社と申せ
るが本名小ハ有けり一併此二社を鴨雷神之別也と

有ハ上小謂ゆ賀茂別雷神社の別社ハ御在り坐か
る可し若て飛鳥神の神戸ある時ハ所祭事代主神小
て御在り坐しむを傳三十九丁小引る稻荷社記ハ中倉
稻魂命即素戔鳴尊子母山祇女上進雄尊下大市姫以
大市姫伊弉諾尊子全名
上三座神是尤秘中深秘也と有て次小神祇拾遺云
弘長六年加田中四大神爲五座也田中社者大田分身
三峯地主一説云大巳貴命巳貴命四大神者四柱兒神也五十猛大
屋姫梳津姫事八十神也と云々を社説小田中社ハ飛
鳥田神社四大神ハ御諸神社是ありと云り今思ふ小
大巳貴命ハ御諸神社の主神少く渡りて給ふ可き事

大和飛鳥... 坐す事申すも更なり然る時ハ田中社を一説大己貴神と云ハ當しぬ事少く太田分身と云方正一可

上四百二
十五丁 小云々如くふれば右の四大神ハ從祀して
坐す事申すも更なり然る時ハ田中社を一説大己貴
神と云ハ當しぬ事少く太田分身と云方正一可
其ハ右 六百八 十三丁 小注子太田神社を猿田彦神と傳た
俗説ハ依れ物々其事代主神猿田彦神ハ同体
小御在り坐て分身とし申しつ可と御事ふれば其田
中社若飛鳥田神社ありむハ事代主神系御在り坐
す事決くるむ有けり又其真幡守神社二座寸字ハ石
村を石寸と書が如く村の省文あり斯ハ真幡村と
云て秦氏の本貫ありあり可し稻荷の社司ハ秦伊

△今藤本社の後小
並立せる八階宮大
將軍社の二座と其
地主神とて崇奉
り稲荷祠官右社
を以て神と爲る小

呂具より始て今も秦氏あり小右 六百四 十丁 小引る秦氏
本系帳小鴨下上松尾三社の御事を云て次小是以秦
氏奉祭三所大明神而鴨氏人為秦氏之聲也秦氏為愛
聲以鴨祭讓與之故今鴨氏為祢宜奉祭此其縁也と有
小據小ト真幡村寸神社ハ其秦氏の祖神を祀れり故
小別雷神の別社とハ祀ハれ給ふ御事ありけり此
神社の所在詳かりず或説小今田藤社社乎と云る小
就て考有り名勝志小稻荷社今在藤尾元藤社社在其
處稻荷社從山上被迂山下時藤社社移今地 大和大路
故藤社縁起云ハ山城國紀伊郡藤社尾之靈地垂跡云 東伏見北

△名迹志小指少何
神社條小撰社藤
尾社在島居由北
方南向之所見た
れば伏見小指少
後にも猶其迹を記
小遺せしむ可

然則藤尾社藤杜神也と云るを以考る小真幡才神
社其藤尾社も時ハ山城風土記小称伊奈利者秦中
家忌才^{遠祖}伊呂具秦公積稻梁有富祐乃用餅為的者化成
白鳥飛翔居山峯遂以為社名と有て此時山上小稻荷
神社を祀奉り山下も伊呂具が住所ハ真幡村少く
其氏神^{其氏神}藤尾社と稱奉れりを其稻荷神社を
山下小移奉りしより其真幡村の村名ハ其藤尾社小
遺りて此處ハ絶た多者ある可^{ハミケム}賀茂別雷神社の
未社小藤尾社坐新宮與拜殿間と有る決く其真幡才
神社の遙社少く秦氏の祖神ハ有べし但藤森神社
ハ所祭三座

中央舍人親王東間早良親王西間伊豫親王一説小申
早良親王左井上皇后右他戸親王とも云り名勝志小
當社始在大和大路二橋東南今云塚本天皇是也然四
條院御宇延應元年九條道家公就東福寺建立以社移
深草極樂寺村南称故天皇と有を見れば右の三所御
靈を藤森小移されたるハ遙小後の事あり其本社の
後の西方小大將軍社東方小八幡宮御在し坐す其大
將軍社を當地地主神として重々攝神として齋祀し
を同書小載る一説小同東西攝社ハ幡宮大將軍真幡
才神社今此無社号未代所混雜乎云々称徳天皇御宇
神護景雲年中當國紀伊郡藤尾社地鎮座其旧地今
稻荷社地也依称藤尾社又称神号藤尾天皇早良親王
在世時尊崇當社云々稻荷社自山上三峯至今地遷座
遷當社於今藤杜地也以件義稻荷神官此神為産汝神
也と云るハ實小如此くふる可^ハ但其遷奉れり後
花園天皇永享十年四月八日と云ハ違ふ可^ハ諸神記
小藤森社縁起云弘仁七年弘法大師稻荷大明神為勸
請稻荷大明神藤森天皇の敷地之内所望之田被連敷
聞被伺申當社神慮之處可奉借之由依有神託勸請之
自尔以來号被社於稻荷矣と有る方正し可^ハ然

る時ハ其弘仁ノ頃より藤森社と崇奉りハ右ノ
八幡宮大將軍社ノ二神ハ御在ニ坐を其地ハ大和
路ニ橋ノ東南ハ在ニ三所御座を後ハ祀りて本社
爲レられたるより其藤森ノ社号ハ本社ノ方ハ終
小撰社トハ成レ給ヘ者ト見山今思ふハ八幡宮
ニ申すハ例ノ玉依姫命ハ賀茂御祖神ハ大將
軍ト申すハ大己貴神を八千戈神トモ稱奉レハ然
ル名を設テ稱奉リ者少ク實ハ下賀茂社ノ御神を
此ハ祭りテ秦氏ノ氏神トシテ祀ルカ多ク思フ
後紀ハ鴨別雷神ノ別也ト云ハ右ノ飛鳥田神社ハ上
賀茂ノ別社此ハ下賀茂ノ ○相樂郡岡田鴨神社ハ大月
別社少ク御在ニ坐メリ ○相樂郡岡田鴨神社ハ大月
嘗此神社ノ御事ハ山城風土記ハ可茂社稱可茂者日
向曾之高千穂峯天降坐神賀茂建角身命也神倭石余
比古天皇之御前立上坐而宿坐大倭葛木山之峯自彼
漸迁至山城國岡田之賀茂隨山代河下坐葛野河與加

茂河略ト有リ御道次ハ留ルを御在ニ坐リ地多ク但
此ハ賀茂建角身命ト有レトモ 右 六百五ノ注ニ如
ク其實ハ賀茂事代主神ト共ハ御在ニ坐タルト云
所思ニければ此ハ諸國ノ賀茂神社ノ例少ク事代主
神を主ト被祀ルカ多ク續紀ハ文武天皇慶雲三
年二月戊午山背國相樂郡女鴨首形名ト云人有ハ此
社ノ祝多ク有リ可一其元明天皇和銅元年九月戊寅
行幸山城國相樂郡岡田離宮略持給賀茂久仁二里戶
稻三十束ト有テ賀茂ト久仁ト二里ノ名見えたるを
和名抄ハ相樂郡賀茂郷ト出たり但古ハ岡田ハ其

△其里村と云ハ賀茂
 郷小北村丹波音井
 里村大野觀音寺
 高田と七村有る中
 村と云ハ今賀茂里
 村と云ハ今賀茂里

邊の大名賀茂久仁等ハ一里の小名あり在りありけり
 又聖武天皇天平十三年正月癸未朔天皇始御恭
 仁宮受朝と有て此時小恭仁都定けりけり小同十五
 年八月丁卯朔幸鴨川改名爲宮川也と有を以て賀茂
 と恭仁とハ實小接地あり事を知べし中右記小元
 永元年閏九月留賀茂上号所從泉木津及三四十町と
 有り名迹志小賀茂社在賀茂其地今云里村此所笠置
 路而在從渡八九町許路傍左社西向と所見たり神階
 の御事ハ三代實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授
 山城國從五正六位上岡田鴨神從五位上と有り夫木集小

行家山城の此都をや守りけむ岡田の鴨小跡重しよ
 此都と云ハ右小謂ゆる恭仁都を云ふ可し
 諸其恭仁ハハ神名式小岡田國神社大月次と有る此
 神社の所在ありを以云稱ある可し國神社と諸國の
 例大已貴神を齋奉る所定ありければ此ハ右の鴨
 神社の事代主神小相並ませ御在し坐し彼賀茂下
 上神宮の例ありし右の鴨川を隔るる地方を賀茂
 南方を恭仁と号けて賀茂事代主神と大國主神の御
 名を負せて地名とハ爲る者あり可し諸續紀小天平
 十二年癸十二月戊午略經略山背國相樂郡恭仁郷以擬

高野宮
大宮
小宮

小泉川の名泉川
と云ふ古事記

消印
大泉宮

遷都故也と有て此時ハ郷名あり久と和名抄小
載さるハ後小一村の名と成て水泉以豆美郷小收たる
みや万葉六四丁讚久迹新京歌の及訶の中小泉川往
瀬乃水之絶者許曾大宮地遷往目と有と始とて夫
木集小中務泉川ニ風寒今日よりや久迹の都ハ衣
打とむと有と多く泉川小詠合せたるを見て小灼
事あり神階の御事ハ三代實録小貞觀元年正月廿
七日甲申奉授山城國從五位下岡田國神從五位上と
所見たり此社今在笠置川邊曰國津明神と云り笠置
川と云ハ泉川の名あり右小謂ゆる岡田ハ續紀小
和銅元年九月庚辰行幸山

